

2023年5月11日

各 位

会 社 名 株式会社ナカボーテック  
代表者名 代表取締役社長 木 村 浩  
(コード番号：1787 東証スタンダード市場)  
問合せ先 執行役員 総務部長 浅 木 直 嗣  
TEL 03-5541-5801  
soumair@nakabohtec.co.jp

## 中期経営計画「23中計」策定のお知らせ

当社は、2023年度から2025年度の3年間を対象とした中期経営計画「23中計」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

1. 計画の名称 23中計
2. 期間 2023年4月 ～ 2026年3月
3. 概要 添付『中期経営計画「23中計」』をご参照ください。

◇添付資料

『中期経営計画「23中計」』

以 上

# 中期経営計画「23中計」

(2023年度～2025年度)

2023年5月11日

株式会社ナカボーテック

# 中期経営計画「23中計」の策定について

- 事業を取り巻く社会・経済の環境変化が大きくなり、益々先行きが不透明な時代となる中、日常の経営・事業活動の基軸となるパーパス、そして、経営計画をステークホルダーの皆さんと共有することが重要と考え、この度、当社の「パーパス」と中期経営計画「23中計」を策定し、公表することといたしました。
- 「23中計」においては、2023年度から2025年度までの3年間で事業基盤整備の期間と位置付け、以下に注力することを骨子としております。
  - ① 当社の主力である港湾事業を中心とした既存事業で堅実な業績を確保する。
  - ② 「23中計」期間後に新規事業が収益貢献するための基盤を形成する。
  - ③ 業務効率化を推進して建設業の2024年問題に対応し体質を強化する。
  - ④ ESGの取り組みを開始し、内部ステークホルダーのエンゲージメント向上と気候変動リスク対応に取り組む。
- 2030年度を目処に、売上高150億円超、経常利益14億円超を安定的に計上できる企業体にステップアップすることを目指し、各戦略を推進してまいります。

# パーパスとスローガン

事業環境に変化が生じても振れない、当社の基軸となる存在意義を明確にするため、当社のパーパス、及び、パーパスを一言で表現するスローガンを以下の通り設定しました。

## パーパス（当社の存在意義）

**ひたむきに防食技術を追求し、社会基盤の価値をまもり続けることにより、安全安心な日常を次代につなげます**

We ensure the safe and secure people's life to the next generation by pursuing corrosion protecting technology and keeping the value of social infrastructures.

## スローガン

**いまある“価値”を次代へ！**

Present Value to the Next Generation!

# パーパスの意味合い

当社が営む防食事業は、社会基盤の維持延命・長寿命化に無くてはならない仕事であり、施設や設備の資産価値を護り、人々の安全安心な日常を守りつづけています。経済・生活・環境といった貴重な日常の“価値”を次の世代へと残し繋げていくこと、それが社会に対して当社が提供する価値であり当社の存在意義であると考えます。

ここに掲げたパーパスは、当社がこれからも、長年の実績に基づいていただいた信頼を大切に、情熱をもってひたむきに防食事業に取り組んでいく決意を表現しています。

## 当社が社会に提供できる価値

### 防食技術による インフラ施設の長寿命化

- 電気化学のインテリジェンス
- 調査・点検・診断技術
- 防食提案・設計技術
- 防食工事の施工管理力

## 社会が当社に期待する価値

### 腐食に起因する さまざまな価値の毀損軽減

- インフラ施設の老朽化抑制
- 無故障・無事故
- インフラのメンテナンスコスト削減
- 資源の有効利用・環境保護




当社の  
存在意義  
= パーパス

### 当社の思い・情熱・行動

長年の実績に基づいていただいた信頼を大切に、情熱をもってひたむきに防食事業に取り組んでいく決意

# 既存事業の事業環境と対応

「23中計」期間中、港湾・港湾RC分野の成長が期待できる一方、地中・陸上事業は横這いに推移し、全体としては緩やかな成長を予想します。

| 事業             | 事業環境見通し   | 「23中計」における取り組み   | 売上見込  |
|----------------|---|--|---|
| 港湾事業<br>港湾RC事業 | <ul style="list-style-type: none"> <li>未防食、或いは、更新時期を迎える要防食施設は国内に相当数存在する</li> <li>CNP *、洋上風力発電施設基地港、防衛関連施設整備などの新規需要により、市場規模は拡大する</li> <li>港湾RC施設は、塩害による劣化がより顕在化してくる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>施設それぞれに対する最適な防食工法の提案を行い、事業規模の拡大を図る</li> <li>新規需要への参入に向けた営業・提案活動に注力する</li> </ul> | 拡大成長<br>   |
| 地中事業           | <ul style="list-style-type: none"> <li>埋設管の新設工事は減少状態にある</li> <li>市場は調査点検と更新工事を中心となる</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>調査点検業務の省人化を図る技術の導入を加速し、収益力を強化する</li> </ul>                                      | 現状維持<br> |
| 陸上事業           | <ul style="list-style-type: none"> <li>主力の発電所市場はエネルギー政策によって対象施設や市場規模が大きく変化する</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>実績ある火力・原子力発電施設対応に加え、業界動向に即応して各関連施設に参入出来る準備を進める</li> </ul>                       | 現状維持<br> |

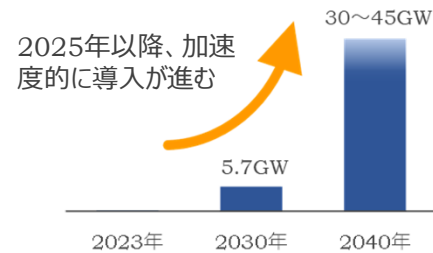
\* CNP：「カーボンニュートラルレポート」。港湾において、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化や水素等の受入環境の整備等を図るもの。

# 新規事業の取り組み

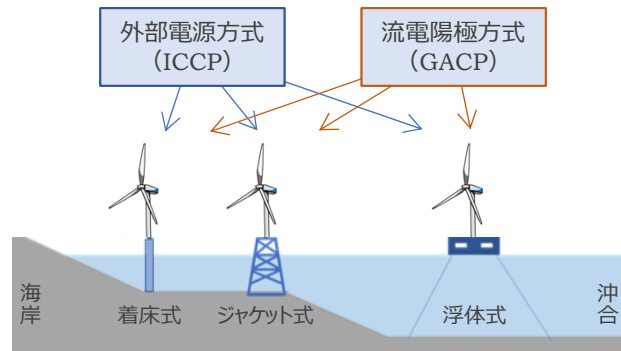
新規事業では、特に「洋上風力発電分野」、「橋梁RC分野」に注力し、これら事業が成長ドライバーとなり、「23中計」期間後に収益貢献するための基盤形成に注力します。

## 洋上風力発電分野

### 洋上風力発電の政府発電目標 \*1



### 洋上風力発電施設防食の技術動向



- 洋上風力発電施設に電気防食は必須の技術
- 風車設置海域が沖合に拡大することに伴い、様々な風車設置方式と防食技術の組み合わせへの対応が求められる

### ナカボーテックの強み

- 国内で唯一、外部電源・流電陽極両工法の設計・施工実績を持つ先行企業としての経験・ノウハウ・人材・情報
- 外部電源方式：CORROSION社\*2 との提携による最新技術・ノウハウの共有
- 流電陽極方式：港湾防食のリーディングカンパニーとしての設計・施工技術、陽極生産能力

### 「23中計」における取り組み

- あらゆる海域、風車設置方式の組み合わせにも最適な防食工法を提案できる技術・工法開発
- 部材国産化等によるサプライチェーンの強靱化、専門人材の強化・育成
- 以上を通じ、先行する着床式のみならず、ジャケット式・浮体式においても優位確立を図る

## 橋梁RC分野

### 市場動向とナカボーテックの強み

- 塩害等による橋梁の劣化は大きな社会課題であり、補修を要する橋梁は多数存在する
- ランニングコストを抑制できる流電陽極工法の普及が期待される
- 当社は、独自の流電陽極工法「NAKAROD®」\*3 を開発\*4 し、その有効性が認知され始めている

### 「23中計」における取り組み

- NAKAROD®が橋梁等の補修工事に大規模にご採用いただけるよう、お客様・コンサルタント様との連携を強化し、工法をブラッシュアップ
- NAKAROD®陽極デバイスの生産体制を整備



**NAKAROD**

橋梁へのNAKAROD®施工例

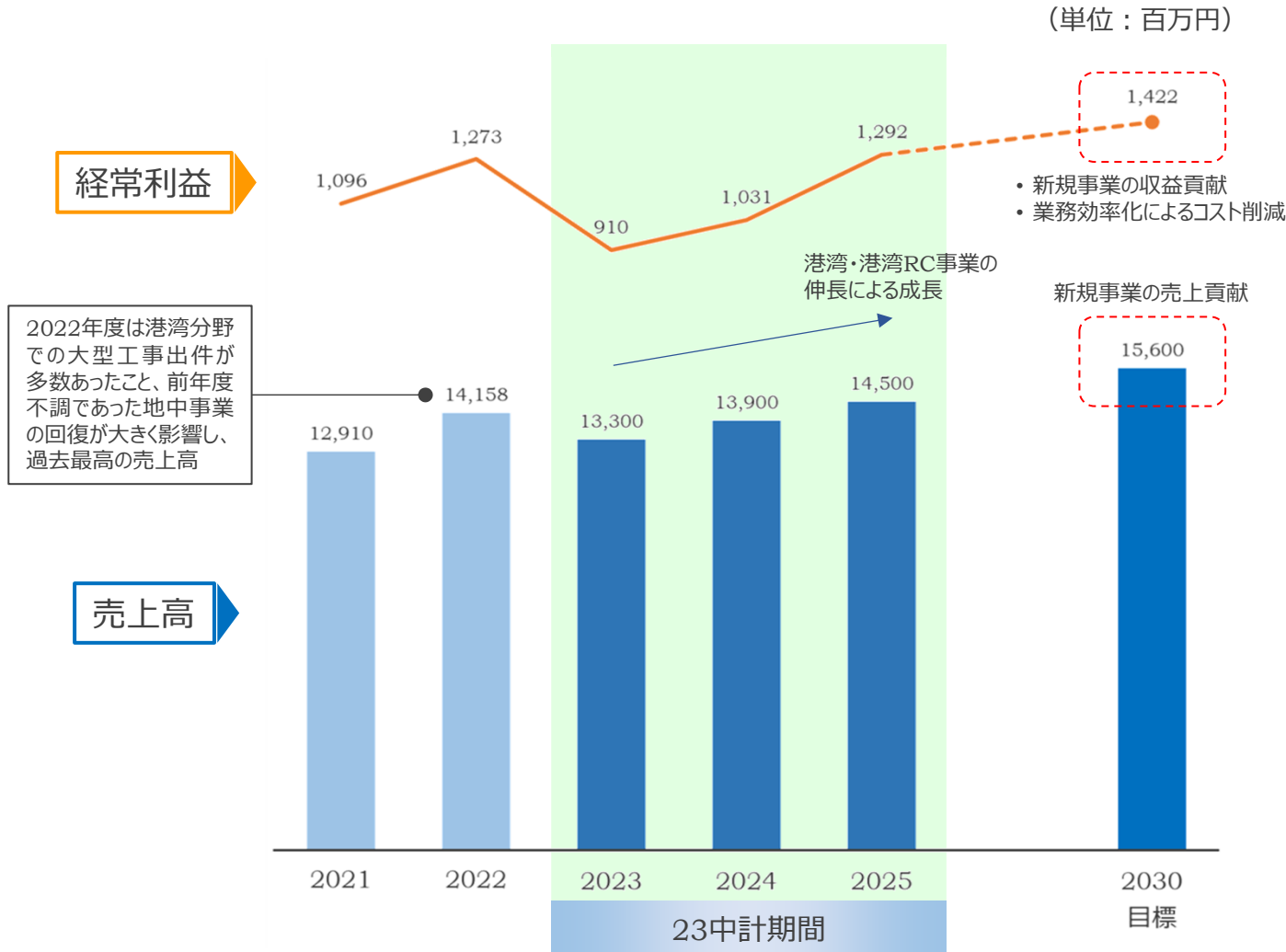
\*1 出典：2023年は当社推計、2030年・2040年は政府「第6次エネルギー基本計画」より。

\*2 CORROSION社：オランダの防食システム専門企業であり、洋上風力発電風車のICCP防食では世界トップシェア。当社は国内における同社ICCP製品の独占販売契約を締結しています。

\*3 NAKAROD®はナカボーテックの登録商標です。 \*4 [https://www.c-nexco.co.jp/corporate/pressroom/news\\_release/5363.html](https://www.c-nexco.co.jp/corporate/pressroom/news_release/5363.html)

# 「23中計」財務計画サマリー

「23中計」期間中は、港湾・港湾RC分野の市場拡大を確実に捉えて堅実な業績を確保する一方、中計期間後に新規事業が収益貢献するための基盤形成を行います。



## 「23中計」期間は事業基盤整備の期間

- 港湾事業を中心とした堅実な業績確保
- 中計期間後に新規事業が成長ドライバーとして収益貢献するための基盤形成
- 業務効率化によりコストを削減し、体質を強化
- 投下資本を効率的に運用し、健全な財務状況を維持
- 配当性向は現状方針の70%を継続

## 「23中計」期間の財務数値計画

|                                   |                  |                                 |                 |
|-----------------------------------|------------------|---------------------------------|-----------------|
| <b>売上高</b><br>上段：期間累計<br>下段：最終年度  | 417億円<br>145億円   | <b>ROIC</b><br>最終単年度            | 10.2%           |
| <b>経常利益</b><br>上段：期間累計<br>下段：最終年度 | 32.3億円<br>12.9億円 | <b>ROE</b><br>最終単年度             | 10.4%           |
| <b>FCF</b><br>上段：期間累計<br>下段：最終年度  | 19.7億円<br>8.3億円  | <b>配当</b><br>上段：配当総額<br>下段：配当性向 | 15.8億円<br>70.0% |

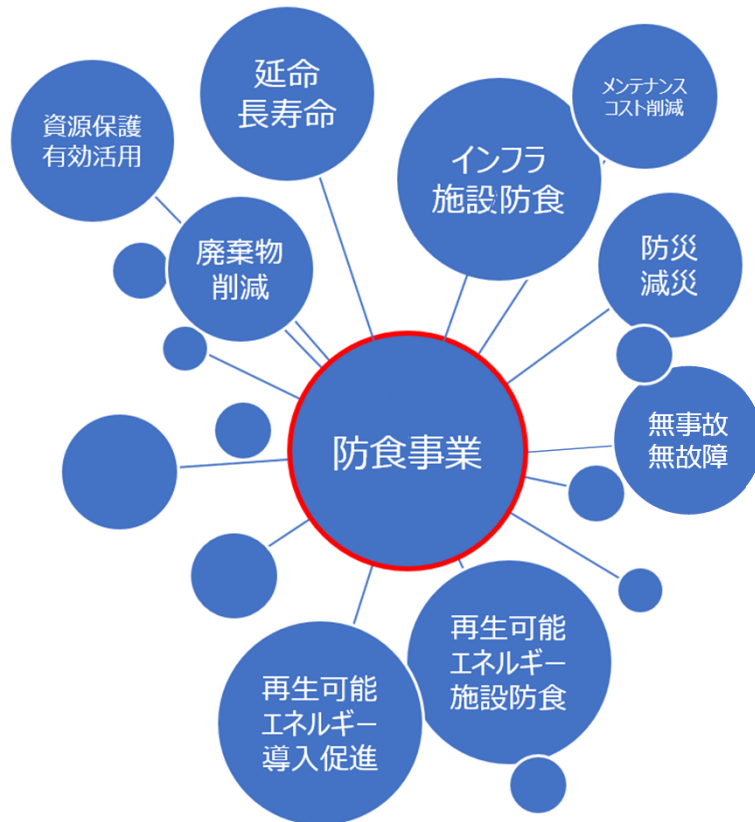


# サステイナブルな社会にむけたESGの取り組み

防食事業そのものによるサステナビリティへの貢献のみならず、「23中計」始動と共にESGの取り組みを本格的に開始します。マテリアリティを「内部ステークホルダーのエンゲージメント向上」、「気候変動リスクへの対応」とし、これらに重点的に取り組みます。

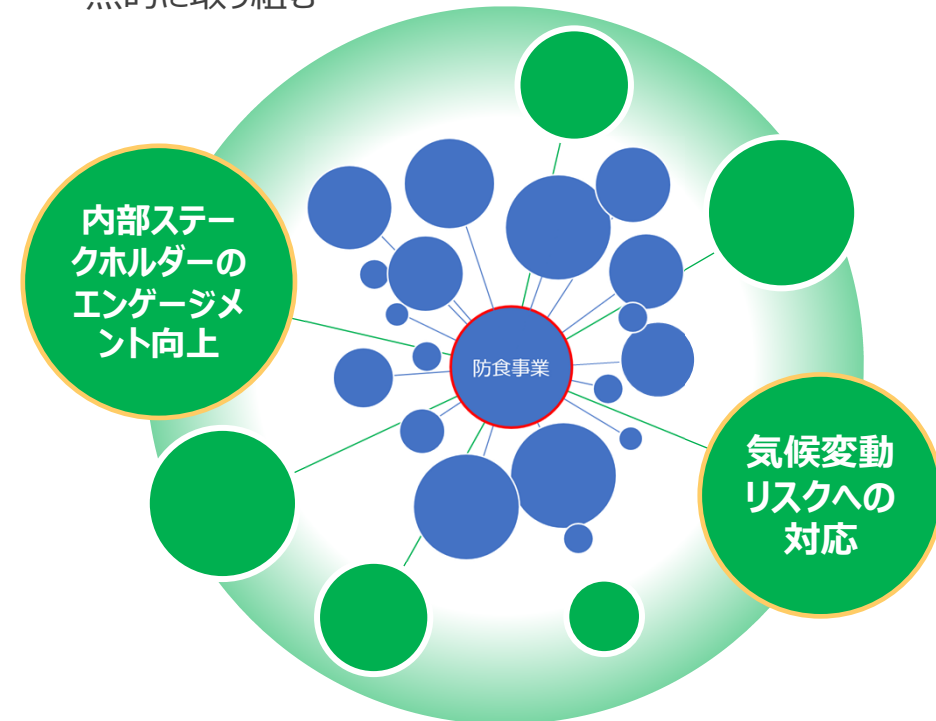
## 防食事業によるサステナビリティへの貢献

- 防食事業は、インフラ施設の防食等を通して持続可能な社会の実現に貢献している



## 「23中計」におけるESGの取り組み

- 防食事業によるサステナビリティへの貢献を核としつつ、より能動的なESGの取り組みを開始する
- 最初のマテリアリティを「内部ステークホルダーのエンゲージメント向上」、「気候変動リスクへの対応」とし、これらに重点的に取り組む

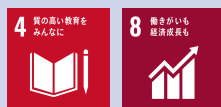


# 内部ステークホルダーのエンゲージメント向上

協力会社様を含めたエンゲージメント向上を重要な経営課題と位置付け、「働き易さ」と「働き甲斐」双方の向上に向けた、処遇改善を含む施策を企画・実行します。

## 取り組むべき課題

**1** 「働き易さ」、「働き甲斐」を両立し、双方の向上に資する施策の企画と実行



**2** ワークライフバランス向上に加え、建設業2024年問題\* 対応のための業務効率化



**3** 戦略的な人財の確保と育成



## 「23中計」における取り組み

- ライフプラン支援金導入によるベースアップ等の処遇改善
- 奨学金返済にも利用可能な福利厚生制度導入
- スライド勤務制度導入・テレワーク促進・育児介護休暇制度活用奨励等、多様な働き方への対応
- 資格取得・自己啓発の支援強化

- 施工管理用デジタルツールの大規模・迅速な導入
- バックオフィス業務効率化のための経費精算システム刷新

- 多様な人財確保のため、新卒／キャリア、男性／女性のバランスが取れた採用活動
- インターンシップ制度導入、採用ホームページ刷新
- 教育・研修制度の拡充

\* 建設業2024年問題：「働き方改革関連法」が2024年4月より建設業に適用されることに伴って解決すべき諸問題。

# 気候変動リスクへの対応

地球温暖化や異常気象など気候変動に起因する様々なリスクは、私たちの生活に大きく影響する重要な課題です。特に環境問題に対し責任ある企業活動を行うことが重要と認識し、積極的に取り組んでまいります。

## 取り組むべき課題

- 1** 温室効果ガス排出量削減のためにすぐに取り組める施策の実行



- 2** 温室効果ガス排出量削減のための中期的な取り組みの開始



- 3** 温室効果ガス排出量の算定・把握



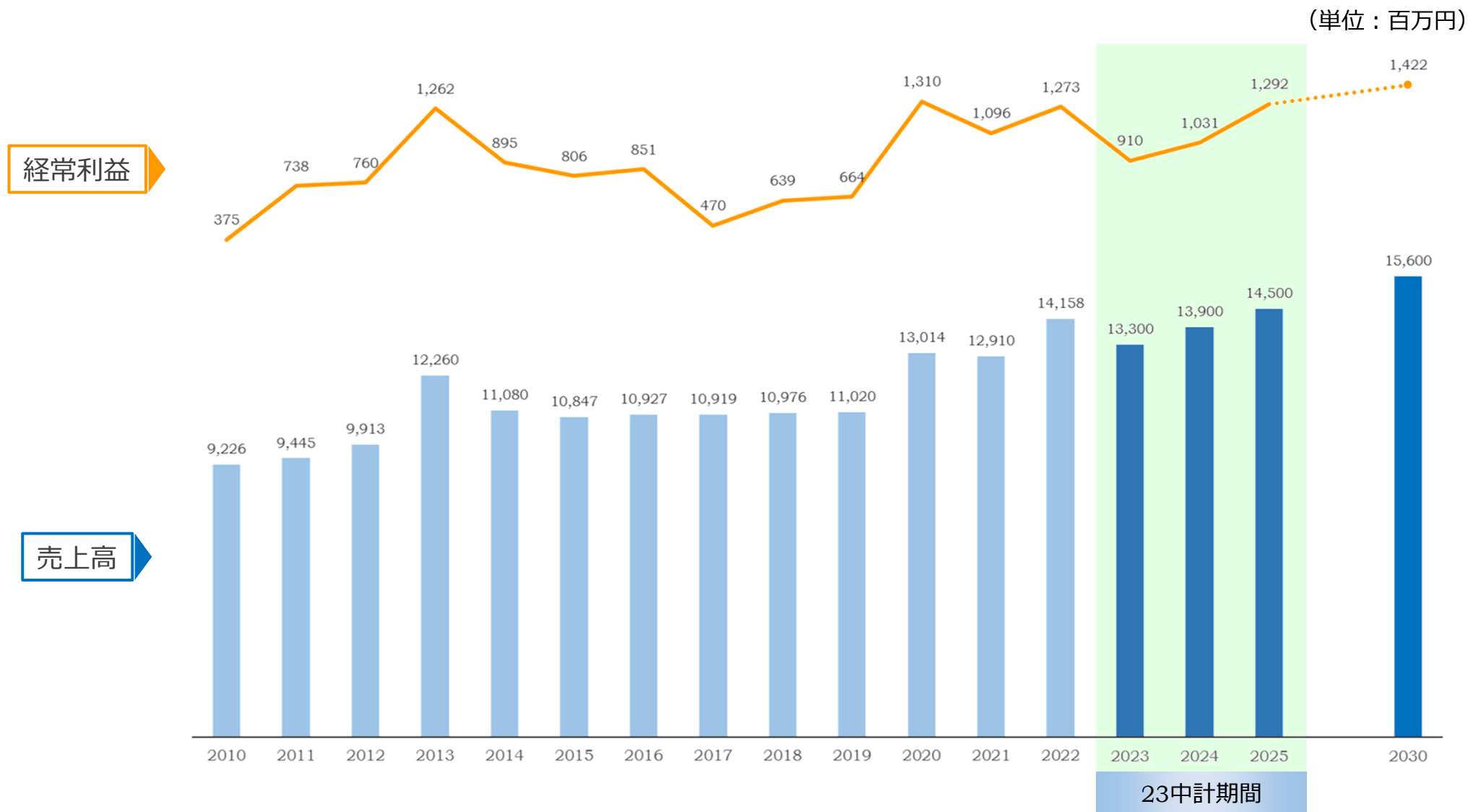
## 「23中計」における取り組み

- 社有車のハイブリッド車・EV車への更新
- 業務効率化、テレワーク推進等による省エネルギー
- 従業員への啓蒙、協力会社様への説明と協力要請

- 工場、研究所、支店敷地等へのソーラー発電システム導入検討

- Scope1、Scope2排出量の把握
  - 工場排出量
  - 社有車等、車両排出量
  - その他
- Scope3排出量把握のためのサプライチェーン調査

# (ご参考) 2010年度以降の業績推移





いまある“価値”を次代へ！  
株式会社 **ナカボーテック**